

知事と区市町村長との意見交換会(福生市)

令和2年10月12日(月)

14時50分～15時10分

○行政部長 それでは、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からお願いいたします。

○知事 加藤市長、今日はわざわざお越しいただきましてありがとうございます。

コロナがこのように世の中を短期間で変えてしまうものかと改めて思うところがございますけれども、感染拡大の防止と社会経済活動の両立という大きなテーマがございます。このウィズコロナ時代にどうやって立ち向かっていくのか、そしてまた、構造改革を都庁においても行っているところであり、これを梃子にしまして、新しい日常やサステナブル・リカバリーという新たな視点からの長期戦略を描いている途中でございます。

今日は、市長の方から現場を預かっておられる身として、今の課題、そしてまた、今申し上げましたように、長期戦略を描く上での様々な市としての考えなど、短い時間ですけれどもお聞かせいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、加藤市長、御発言をお願いいたします。

○福生市長 小池知事には、コロナ対応を含めて、日々大変お忙しいところをこうやって時間を作っていただきまして、誠にありがとうございます。本当にタフだなと思っていますので、お体の方を重々気をつけていただければと思っています。

そして、大変大人数でお邪魔させていただきました。是非よろしくお願いいたします。

ウィズコロナ、またアフターコロナを見据えたという来年度予算について、少しだけお話をさせていただきます。

やはり、どこでもそうなんですけれども、当初予算が令和2年度に比べて、今現在でも2.45%の税収の落ち込み、来年度はやはり8.26%というふうな私どもは試算をしております。そういう中で、やはり市民へのサービスを低下させることなく、このコロナ対応の中で仕事をしていかなければならないということもございますので、東京都も含めてですけれども、是非そのところはお助けをいただければ、財政支援をしていただければというふうに思っておるところでございます。

それと、どこでもそうなんですけど、病院を持っている自治体は大変なので、いろいろ知事の方には必ずお願いがされていると思うんですけども、私どもも羽村市、瑞穂町、そして福生市、2市1町で構成しております福生病院を持っております。やはりコロナ患者の受入れや、そして患者の受診控えなどをして大幅な減収が予定されておりますので、これまでも国や東京都から、この病院に関しての財政支援はいただいているところがございますが、まだまだ厳しい状況なものですから、是非この御支援も併せてお願いしたいというふうに思っております。

そして、二点目でございますが、東京都との連携の話でございます。現在、市では、保

健センターにおいて、予防接種や各種健診等を継続して実施しております。これらの事業につきましても感染症拡大防止対策を取りながら実施しておりますので、市民同士の感染やスタッフを介しての感染の危惧がございます。ですから、密にならないように、1回当たりの人数を減らしまして、そして実施回数を増やしながら行っておりますので、事業費の拡大が大幅な増加になってくるのではないかとということも予想されます。是非このところも財政支援の方をよろしくお願ひしたいというふうに思っていますし、補助金の拡充等について、国への働きかけもお願ひしたいというふうに思っています。

そして、三点目、本市独自の課題でございますけれども、知事とお会いしているときに必ず、再三再四というか、お話をさせていただいているのは、福生市は基地を抱える自治体でございますので、外国人の比率が非常に多くなっております。現在4,000人弱、約6%ぐらいの外国人を抱えております。なるべく外国人と仲良く、そして、これからの日本の将来を見据えてのやり方も考えながら市政を展開していきたいというふうに思っております。

そういうふうな意味で言えば、昨年の台風第19号のときに避難指示を出しました。それも、なるべく早く外国人の方にもお知らせをしなきゃいけないということは大前提でございますので、今、様々な実証実験を兼ねて、外国人にお伝えするすべを考えているところでございます。AIのチャットボットを介して、今4か国ですけども、窓口対応では13か国ぐらいできています。ただ、なるべくやさしい日本語で伝える部分も含めて、これからそういう部分も模索していかなければならないと思っております。

それと、横田基地がございまして。コロナの部分も、できたら、PCR検査は横田に赴任する前のアメリカ本国、あるいは世界各国の基地の中でやっていただいて横田基地に赴任していただければというふうに思っておりますが、どうしてもやはりこちらに来てからPCR検査を受ける。また14日間の待機をしているという部分がございますので、ちょっと市民は不安がっているところがございまして。なかなか基地の中の情報が入ってこないものですから、だから、そういうふうな部分で言うと、ゲートが福生市に向いているものですから、そういう部分も含めて、しっかり東京都と連携しながら、やはりこれの話をしていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

それと、ちょっと長くなりまして申し訳ございませんけれども、コロナ対応で言うと、もう一つございまして。休日診療とかそれから夜間診療は、福生市医師会の全面協力をいただいてやっておりますが、なかなか医師の高齢化、看護師の高齢化、それから施設が老朽化している部分もございまして、医師の皆さんもやはりそれを嫌がっている部分がございます。どうしてもやはり休日は少し、当分の間はやめてくれないかという話が出ていますけれども、私どもは全くその空白の期間を作ることはできませんので、しっかりとやはりそのところも東京都の御指導をいただきながら、やはり住民の、子供たちの生命、財産を守ることが一番大事なので、そういうところもお願ひしたいというふうに思っています。

私からは以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○行政部長 どうもありがとうございます。それでは、知事からお願いいたします。

○知事 まず、コロナであります。コロナウイルス感染症の拡大防止ということで、これはまさしく現場と、そしてまた、都の保健所は多摩府中になるわけでありましてけれども、連携をした対応が必要ということでもあります。そこの連携を良くするためにも情報の共有をしっかりとしていきたいと考えております。これからも地域の健康、危機管理の拠点であり、また専門的かつ技術的な支援を行ってまいりますので、これまで週報で出していた情報を、今日は保健だったですね、それを今日から毎日出させていただきますので、より密な情報の共有ということになるかと思えます。

それから、4,000人の外国人在住者がおられ、国の数は、前に伺ったとき百幾つと聞いていた。

○福生市長 いや、60です。

○知事 ああ、そうですか。でも、多い。様々な国の方々がおられるということで、かつ横田基地があるということでもあります。そして、そういう中で、外国の方に適切な情報提供、アクセスの仕方、そういう環境づくりが重要かと思えます。

今、私自身は、コロナについての英語発信ということで、木曜日の夜7時15分からは、コロナの状況プラス東京都で行っていることなどを英語で直接お伝えするにもいたしておりますし、結構大使館なども通じてお知らせしていますし、またそれについても外国からの市民の皆さんにお伝えいただければと思います。

それから、何よりも東京都の外国人相談センター、コロナに関してそうですけれども、それをTOCOSと言ってますけれども、こちらの方で御相談をお受けしていますので、それも御利用いただければと思います。

それから、10月、今月ですけれども、東京都つながり創生財団という拠点ができました。これを通じて14の言語で外国人に相談の対応窓口として支援をしていくということですので、これも御活用いただければと思います。

やさしい日本語の活用促進、こちらの方もそれぞれの市の職員向けの研修の実施なども行ってまいりますので、御活用いただいて、やさしい日本語をどういうふう言い換えればいいのかなどについてのポイントをお伝えするということです。

その他、都民サービスとして多言語化などの取組を進めておりますけれども、ここもいろんなノウハウを共有させていただければ、より必要なところに届くのではないかというふうに考えております。

ということで、あと最後、医療の関係でありますけど、ここはちょっとまた都の医師会や市の医師会との連携でもって、なかなか本当にお医者さんの世界、医療の世界も高齢化が進んでいるということで、それらはむしろ市の問題というよりも国全体の問題でもあります。その夜の時間帯をどうするのか、休日をどうするのか、これまでも工夫されてると思いますけれども、それらについては本当に医療全体でどうあるべきなのかというのは大きな課題でありますので、これらについてもきめ細かな部分と、そしてシステムとして考えなければいけない部分と、両方で都民、市民の安心を確保できるようにしたいと考えて

おります。

その他、副知事の方からお話しさせていただきます。

○副知事 それでは、私の方から、まず一点目が財政課題でございますけれども、本当にコロナ禍というのは自治体財政に大打撃を与えている、そのとおりだと思います。福生市さんにおかれても、特に公立病院を運営されているということで、大変厳しい環境と承っております。来年度は8.26%減ぐらいの見込みということで、本当に都といたしましても全力で支援してまいりたいと思っております。既に都は緊急対策として総額100億円の特別交付金を創設するなど、市町村の財政支援に努めてきたところでございますけれども、今後とも市町村総合交付金や区市町村振興基金の活用などによりまして、適切な支援に努めてまいりたいと思います。

また、国に対しても、全ての自治体に対して確実かつ十分な規模の財政支援が継続するよう要望しているところでございます。

続きまして、母子保健の関係でございますけれども、子供の健康状態等を定期的に確認するため、適切な時期に健診を受診するということは、子供の成長にとって大切な機会でありまして、子育てにおける安心安全ということの基本であるかと思っております。その実施に当たっては、国は母子保健衛生費補助金により財政支援を行っているところでございます。お話のように、今般の新型コロナウイルス感染症の流行におきましては、感染症対策を踏まえた実施方法が求められて、感染症対策も含めた母子保健衛生費補助金が重要な財源だというふうに認識をしておるところでございます。今後も引き続き、国の動向を注視しながら、速やかな情報提供に努めていき、また国に対しても必要な要請を行っていきたいと思っております。

それから、私の方からは、最後に、在日米軍関係者に対するPCR検査の問題でございます。7月21日だったかと思っておりますけれども、福生市長さんはじめとして、地元5市1町の皆様と都知事の連名におきまして、横田基地における新型コロナウイルス感染症の拡大防止について、万全の措置を取ること等に関して、国や米軍に対して要請をしたところ、7月29日でございますでしょうか、これらの要請を受けて、今の時点では、日本に入国する全ての在日米軍関係者に対しまして、14日間の移動制限措置の期間内にPCR検査が実施されているということになったということをお聞きしております。

また、これとは別に、都といたしましても米軍基地所在の沖縄等都道府県で構成する涉外知事会を通じまして、国に対しまして同様の要請を2回にわたり行っておるところでございます。大変市民の方の不安というのでも理解できるところでございますので、今後も感染症対策の徹底と住民の安全確保の観点から、引き続き国や米軍に対して、必要なことは申し入れてまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

○行政部長 それでは、今のお話を受けまして、加藤市長の方からいかがでございますでしょうか。

○福生市長 御丁寧な答弁をいただきましてありがとうございます。とにかくこういうときでも一生懸命、やはり市民の方に向けて、頑張っていかなきゃいけないと思いますので、

今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後に、要望ですけれども、福生市は、西多摩の玄関口として、商業で栄えてきたまちなのですけれども、様々な施設も老朽化していますので、今、福生駅の西口の再開発を考えて、そこに施設を全部統合して、そして住居部分も作成して、民間主導ですけれども、そういうことを7年ぐらいかけてやろうと思っています。是非その部分も東京都の道路も含めてですけれども、再開発事業に御協力をいただければというふうに思ひますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは、最後に知事からお願ひいたします。

○知事 コロナの発生で、その後、本当に生活様式も大きく変わってまいりました。テレワークなども、私、もう最初の頃からこれを徹底してやろうということを進めてまいりましたけれども、ここへ来ましてコロナに背中をどおんと押される形で、テレワークがこれまで考えもしなかったような産業なども取り組み始めているという状況であります。もちろん現場にいなければちが明かない、そういう業種もございましてけれども、このテレワークの推進によって、また多摩地域に住んでおられる方々の働き方も大きく変わろうとしております。今、再開発のお話もございました。新しいこのポストコロナの東京、また多摩地域の在り方など、大きな観点からも考えていかなければいけないというふうに思ひますし、また、担当の方にも先ほどの駅前のお話などは御連絡いただいて、これらについては連携できるようにしていきたいと思っております。

○福生市長 テレビで福生の子供たちに話しかけていただきまして、非常に喜んでいました、ありがとうございました。

○知事 またよろしくお伝えください。

○福生市長 ありがとうございます。

○行政部長 それでは、以上で終了いたします。本日は、御多用のところありがとうございました。